

『銀の風』は世界遺産「石見銀山遺跡」から着想を得ています。
「石見銀山遺跡とその文化的景観」は人類の平和と人権の尊重を
めざすユネスコの世界遺産に登録されています。

- 新しい職員を迎え スタートしました！
- 診療科紹介／総合診療科
- おおだの医療を支える
一病院スタッフの1日ー
(リハビリテーション技術科)
- 市立病院からのお知らせ
 - ・「乳がん検診のお知らせ」
 - ・「やさしい日本語」研修会
(令和8年2月10日)

新しい職員を迎え スタートしました！



整形外科 上席部長
熊橋 伸之



整形外科 部長
野崎 健治



消化器科 医員
長谷川 修明



放射線科 医員
坂上 杏奈



事務部長
布野 英彦



初期臨床研修医

宮川 航太郎
西 優衣奈 松浦 武典
大野 理沙



令和8年4月1日、医師4名、初期臨床研修医4名、助産師1名、看護師11名、介護福祉士1名、臨床検査技師1名、診療放射線技師1名、管理栄養士1名の合計23名の新入職員を迎え総勢416名でスタートを切りました。

新たな仲間と共に、地域の皆さまに信頼される病院として、より質の高い医療の提供に努めてまいります。

- 和** 1)大田二次医療圏の中核病院として、5疾病6事業を中心とした急性期医療を提供します。
2)病病・病診連携により、圏域に必要な医療提供に努めます。
誠意 3)地域での必要度の高い疾病に対し、保健・福祉と連携した予防から介護までの一体的医療サービスを提供します。
4)訪問看護等を通して在宅医療や地域医療の向上に寄与します。
奉仕 5)医療水準の向上と安全な医療環境整備に努めます。
6)職員相互の協調によるチーム医療の実践と、よき医療人としての人材育成に努めます。

市立病院からのお知らせ

乳がんの早期発見と 未来の安心へ。

「乳がん検診のお知らせ」

乳がん検診をより多くの方に受けていただけるよう、検査内容などの見直しを行いました。ご自身の健康を守る一歩としてご活用ください。詳しくは医事室までお問い合わせください。

- 「しまね電子申請サービス」によるオンライン予約を始めました。右のQRコードから予約申込できますので、ご活用ください。
- 検診は1日12名まで受け入れます。
検査日/毎週火曜日から金曜日 午前(10時~12時)6名
午後(14時~16時)6名
- 検査はマンモグラフィ検査1回の受診のみで終わります。
- マンモグラフィの撮影は、常に女性診療放射線技師が担当します。
- 新しいマンモグラフィ撮影装置が稼働します。
新しいマンモグラフィ撮影装置は、撮影で乳房を圧迫する際に生じる痛みを軽減する機能が備わっています。

【お問合せ先】医事室 電話0854-84-7571
※電話での予約も受け付けています。

新しいマンモグラフィ機器の導入には、クラウドファンディングで皆さまから寄せられた寄付金を活用しています。
たくさんのご協力誠にありがとうございます。

ご予約は
こちらから
「しまね電子申請
サービス」



「やさしい日本語」研修会(令和8年2月10日)

第40回出張指導において、「医療現場で役立つ『やさしい日本語』」と題し研修会を開催しました。

講師に、順天堂大学大学院医学研究科 教授 武田裕子先生をお迎えし、院外からの参加者も含め76名が参加しました。


研修では、相手にあわせて分かりやすく伝える工夫や言葉の置き換えについて学び、実践的な理解を深める機会となりました。

参加者からは「大事なことを選んで伝えることの大切さが分かりました」などの感想があり、今回の学びを活かし、より分かりやすい対応を心がけ、日々業務に活かしてまいります。

「やさしいにほんご」にしてみました…

だい40かいのしゅっちょうしどうで、べんきょうをしました。びょういんでつかうやさしいにほんごのべんきょうです。せんせいは、たけだゆうこさんです。76にんきました。そこのひともきました。やさしくはなすほうほうをべんきょうしました。むずかしいことばを、やさしいことばにしました。さんかしたひとは、いいました。「たいせつなことだけはなすことがたいせつだとわかりました。」これから、やさしいにほんごをつかいます。しごとで、やさしくはなします。



大田市立病院HP  facebook



発行：
大田市立病院
広報委員会

大田市立病院の様々な情報をホームページ・facebookに掲載しています。

〒694-0063
島根県大田市大田町吉永1428-3
TEL: 0854-82-0330 FAX: 0854-84-7749



向田 千夏
総合診療科 医長

総合診療科とは、特定の臓器や病気に限らず、様々な健康問題を総合的に診る医師のことです。

一般的に、①複数の病気をもち、全身のバランスを診ながら診療が必要なお薬の種類が多く、複雑な調整が必要なお薬、②退院後の生活や在宅療養に向けた調整が必要なとき、③医療だけでなく、介護や生活面も含めた総合的な支援が必要なとき、④原因のつきりしない体調不良（発熱、だるさ、食欲低下）でどの診療科で診るか判断が難しい状態のときに力を発揮します。

当院の総合診療科では、外来診療、救急対応、入院診療から在宅復帰の調整までを担います。

また、幅広い世代の診療に対応できるように、小児医療や救急、在宅療養などの研修を積んでいます。



■大切にしていること

病気だけでなく、患者さんの生活やこれまでの歩み、ご本人の思いに丁寧に向き合っていくことです。検査や治療も、「患者さんにとって何が大事か」を一緒に考えます。こうした思いを大切にしながら私たちは、「人生会議」を進めています。

■「人生会議（ACP）」

「人生会議（ACP／アドバンス・ケア・プランニング）」という言葉をご存じですか？

ACPとは、これからの医療や暮らしについて、ご自身が大事にしたいことを考え、ご家族や医療者と話し合っておくことです。

例えば次のようなことから考えてみることもできます。

- ・体調が悪くなったとき、どのように過ごしたいか。
- ・大切にしたい日常や、続けていきたいことは何か。
- ・望むこと、避けたいことは何か。
- ・特別なときだけでなく、元気づけたいこと、患者さんの思いに耳を傾けながら、一緒に考えていきたいと思っています。

■地域とのつながり

総合診療科は、地域医療機関や介護・福祉スタッフと連携しながら患者さん一人ひとりの生活に寄り添った医療を行っています。かかりつけの先生方と顔の見える関係を大切にし、それぞれの役割を活かしながら、地域全体で支える医療の実現に努めています。

また、令和3年度より三瓶町の池田診療所における診療も担っており、火曜、水曜、金曜の午前、外来診療、午後は訪問診療を実施しています。さらに、月曜日にはオンライン診療にも対応し、地域のみならずが医療を受けられる体制づくりを進めています。

そのほか、地域医療を担う人材の育成のため、研修医や医学生の教育にも取り組んでいます。地域との繋がりを大切に、医療・介護・福祉の連携を深め、継続的な医療の提供に努めています。



■日頃の体調管理や気になることは、まずはかかりつけの先生にご相談ください。当院では、かかりつけの先生からの紹介で受診となり、検査や治療を担います。専門的な対応が必要な場合は、各診療科と連携し、状態が落ち着けば再び地域での診療へつなぎます。

この地域で暮らす皆さんが、安心して日々を過ごせるように、「この地域で一緒に生きる」そんな思いを大切にこれからも診療を続けていきます。



高仁 佑
◆診察日
木曜日
向田 千夏
村上 航太郎

★ぜひ、ぎんざんテレビでの紹介もご覧ください。

【放映日】
5月25日（月）午後5時～
※以降、
5月26日（火）午後4時～
再放送あり

ぎんざんテレビ「銀の風」大田市立病院からのお知らせでも紹介します。

おおだの医療を支える一病院スタッフの1日
（リハビリテーション技術科編）

医療現場の様子や病院スタッフの仕事をシリーズで紹介していきます。

リハビリテーション技術科
療法士の
とある
1日

- ・朝礼
- 01 リハビリテーション実施
- 02 カンファレンス参加
- 03 自宅訪問
- ・カルテ記載（実施記録の入力）
- ・情報提供書類作成

当院のリハビリテーション技術科は、理学療法、作業療法、言語聴覚療法の3つの療法部門があり、急性期から在宅生活期まで幅広く支援していることが大きな特徴です。リハビリテーション（Rehabilitation）とは、「re=再び」、「habilis=適合した、ふさわしい」という意味を表します。患者さんの身体機能回復だけではなくその人らしい生活を取り戻し、地域社会へ参加できるように総合的に支援していく活動がリハビリテーションです。

01 リハビリテーションの実施

リハビリテーションは、医師の指示のもと、患者さんの状態に合った内容を検討、実施しています。

理学療法では、最大限の身体機能回復を目指し、起居や座位などの基本動作訓練や歩行訓練などを行います。

作業療法では、食事、更衣、排泄、入浴等の日常生活動作練習や介助方法の助言、調理や洗濯などの家事動作訓練を行います。

言語聴覚療法では、円滑にコミュニケーションを図ること、安全に食事をとることを目指して言語訓練や摂食嚥下訓練を行います。

日々、患者さん一人ひとりの状態や目標に合わせて、在宅生活や社会復帰に向けた支援に取り組んでいます。



02 カンファレンス参加

リハビリテーションカンファレンスでは、医師と各療法士が参加し、患者さんやご家族の要望も踏まえつつ、状況の共有と今後のリハビリテーションの進め方を検討しています。

また、各病棟のカンファレンスにも参加し、医師、看護師、介護福祉士、医療ソーシャルワーカー等とともに退院に向けた課題等について相談・検討しています。



03 自宅訪問

医師が必要と判断した場合、患者さん・ご家族の了承のもと、担当の療法士が自宅等に訪問します。患者さんの住環境や生活スタイルを確認、共有し、退院に向けた課題を見つけてリハビリテーションに活かしていきます。

また、患者さんとともに外出し実際の生活の場で動作を行いながら動作方法及び介助方法への助言や、具体的な福祉用具選定等を行う場合もあります。

このほか『情報共有』で支えるリハビリテーションを行っています。

退院に向けた支援として、ご家族やケアマネジャー、訪問看護師、通所事業所、介護保険事業所、医療機関等の多くの職種の方と連携を図っています。

実際に、リハビリテーションの様子を見ていただいて、動作時、生活場面での注意点や介助方法などについてお伝えしています。退院後の生活目線で、多職種連携を図ることを目指しています。

『リハビリテーション技術科 スタッフ』



理学療法士16名、作業療法士12名、言語聴覚士3名 計31名のメンバーで頑張っています！